

ベビーシッターマッチングサイトを介して依頼した託児中に発生した2歳男子死亡事故を受けて

～「高かろう良かろう」でも「大手シッター会社や有資格者が安心」でも「ネットは怖い」でもない～

**親子の生の声を聞いて！子育てに必要なとされる支援要件とは**

「子育てを助けてほしい。でも近くに頼れる人がいない」、「公的支援サービスは使いたい時に使えない」、「シッター会社は高すぎて無理」、「ネットでの出会いは怖い」、「子どもがいても働きたい」、「子育ての経験を活かしたい」と大多数の親が思っています。けれど、5年前には解決策がありませんでした。だからこそ、子育ての支援を得て自己実現できる人と支援することで自己実現できる人を両立できる仕組みを創ろうと、2009年に全国の子育て中の親が中心となって株式会社 AsMama を設立しました。以来、子育てを頼りたい人と支援したい人が顔を合わせて出会うリアルな地域交流の場創りと、安心して気兼ねなく子育てを親子ともに顔見知りの知人・友人同士で頼り合えるオンラインの仕組み（「子育てシェア（※）」）創りに取り組んでいます。昨年度は累計300万世帯にアプローチし5万組の親子が地域交流イベントに参加し、子育てシェアはリリース半年で約7,000人が登録しています。

昨今発生した心痛極まるシッターマッチングサイトを介した託児中の死亡事故を受けて、一部有識者や行政からは、「安いには理由がある」「身分証明書の提出を」等が発表されていますが、現実には、高額なシッター会社であることや身分証による本人証明が、必ずしも支援の質を保証したり、支援を依頼する親子にとって安心や信頼を担保するものではありません。むしろ、子育て中の親1000人への独自アンケートによると支援者の要件として求める要件は、「親子ともに顔見知り」「リーズナブル（1,000円以下）」「近所」「安心（事故時の補償）」でした。そうした要件を満たす支援が充実しなければ支援利用促進による女性の活躍や経済の発展は見込めません。実際、AsMamaの子育てシェア利用者たちは、一時間5～700円で知人・友人同士が助け合いをしています。支援者の中には有資格者も多く、決して安かろう悪かろうではないことは、お預かり後の子どもの顔を見ればわかります。

今回の事件の引き金となったインターネットを介した出会いについても全てが悪というわけでもありません。大切なのは、親子共に安心して気兼ねなく預けられる相手かどうかを知るためのプロセスを経ることです。送迎や託児支援が大人にとって必要であっても、子どもにとっては行ったこともない場所や知らない人にいきなり預けられるのは相当な不安とストレスです。子ども目線で考えれば、何度も面識があったり家族ぐるみで仲の良い人の方がずっと安心して居心地がいいはず。そして、支援依頼をする前には、お互いに住所や連絡先、万一の事故に備えた双方が加入する保険や緊急対応について確認しあうこと以外にも、相手の所属コミュニティや人柄、子どもとの接し方を実際に目で見て確認することが必要です。子どもの送迎や託児支援ニーズは誰にでも起こりえます。だからこそ平時から顔が見える繋がり創りと必要な時に信頼できる人に気兼ねなく頼れる仕組みが必要なのです。

今回の事件を受けて、子育て支援の担い手が、有資格者や特定の団体・企業に所属する人、または指定の研修や訓練を受けた人のみに限られる、といった類の規制や指針が加われば、古き良き時代から培われてきたご近所同士で頼り合えるコミュニティそのものが否定されることになり、親だけが子育てを抱え込む閉塞感を一層加速化させ、女性の社会的活躍や少子化の抑止や大きく後退することになります。二度とこのような事件を起こさないためにも子育て世帯が求める支援要件を満たす環境作りに尽力すると共に社会全体で協働できることを切望します。

◆◆◆ 本リリースに関するお問い合わせ ◆◆◆

株式会社 AsMama (<http://asmama.jp>) 広報担当 ☎pr@asmama.jp ☎:045-263-6433

報道関係者各位

2014年3月22日

プレスリリース

株式会社 AsMama 代表取締役 甲田恵子

＝事件発生後に子育て世帯から AsMama に寄せられた声＝

●「あのニュース見た時にすぐ予測したよ。だからこそ asmama だね。リアルなコミュニケーションがあるからこそ安心できる。大きな差別化で訴えて」

●「子どもが大好きで色々な子育て支援活動をしています。先日テレビをつけると「安いには何かあると思った方が良い」「訓練を受けていない人に預ける危険をしるべきだ」と言っているのを聞いて、悔しくて涙が出ました。今回の事件の犯人だって保育士だったわけですから資格があるから安心とは限らないはずですよ。」

●「今回の事件で、すごく助かっている子育てシェアが使えなくなったりはしないでしょうか。こうした地域で安心して利用できる支え合いがなければ働けなくなってしまいます。」

●「誰にも頼れず少しでも安い支援を探してネットに書き込みたくなる気持ちはわからなくはないです。でも、個人のシッターより子育てシェアの方が安いですよ？ 登録料も手数料もかからないのに保険も適用されているなんてすごいです！今回のような事件が起こらないためにも一人でもたくさんの人に知って欲しいです」

●「元保育士です。出産を機に現場を離れましたが子連れで地域の子育て支援に携わることが出来、尚且つ万一の事故には保険が適用される子育てシェアのおかげで、資格と経験を活かして活動しています。色んな知人から支援を依頼されますが、子どもが小さいうちはこうして子どもと働ける環境にすごく感謝しています。」

●「本当に必要なのは多額の財政を投入して作られる保育園ではなく、子どもを安心して託せる顔の見えるネットワーク創りだと思います。これまで会ったこともない人にどんな資格があろうといざという時だからこそ子どもは預けられません！」

他多数

※AsMama の取組みと子育てシェアについて

昨年度は年間 400 回超の地域の親子交流イベントを約 100 社の企業と協同しながらイベント開催に至る過程やイベント現場を通じて顔の見える関係を創りつつ、『子育てシェア（送迎や託児支援が必要な時に安心して頼れる親子ともによく知る友人・知人の中から支援希望者を気兼ねなく素早く見つけられるオンラインサービス。万一の事故には最高 5,000 万円までの賠償責任保険が全利用者に適用される。登録料や手数料等一切かからず 1 時間 500 円～700 円の謝礼を依頼者が支援者に現金かクレジットカードで払える仕組み。）の普及に努めています。

身近な支援者が見つからない場合は、AsMama が本人確認をし、研修・訓練を受けた地域の子育て支援リーダー的存在の「ママサポーター」たちが支援候補者として立候補しますが支援依頼者との面識が浅い場合は事前面談を必要としています。支援依頼者と支援者は従来からの知人同士であることが前提ですが、安全性を考慮して支援依頼が成立した時点で双方にのみ個人情報年共有される仕組みになっています。

2013 年日経ソーシャルイニシアチブ大賞ファイナリスト、同年 経産省主催「新事業創出のための目利き・新事業創出等事業」に採択。2014 年ジャパンベンチャーアワードにて「社会貢献特別賞」受賞他、受賞歴メディア掲載歴多数。

◆◆◆ 本リリースに関するお問い合わせ ◆◆◆

株式会社 AsMama (<http://asmama.jp>) 広報担当 ☎pr@asmama.jp ☎:045-263-6433